

伊吹山の生態系回復への取り組み (シカの食害による森林下層植生の衰退防止に向けて)



2022
岐阜県環境生活部環境生活政策課

1 目的

ニホンジカの食害による下層植生の衰退が顕著であり、裸地化が拡大しつつある伊吹山東面（笹又地区）のニホンジカの生息密度を調査し、対策を考えることを目的とする。

2 背景

- 伊吹山東面（笹又地区）は、豪雪と雪崩により一部裸地化が進んでいる地域である。
- そうした状況に加え、ニホンジカの食害による下層植生の衰退による表層土の流亡で裸地化がさらに進行している。
- こうした状況を踏まえ、ニホンジカの生息調査を行い、効果的な対策を行う必要がある。
- 当該エリアが滋賀県との県境であることから、滋賀県、関係市町と連携して取り組む必要がある。
- 滋賀県側は国定公園、岐阜県側は県立公園に指定されている。

3 調査方法

- ①ニホンジカ生息状況調査（ライトセンサス調査、行動圏調査）
- ②植生遷移調査

4 調査エリア及びスケジュール

※ 別紙 モニタリング計画（調査エリア及び調査スケジュール案）

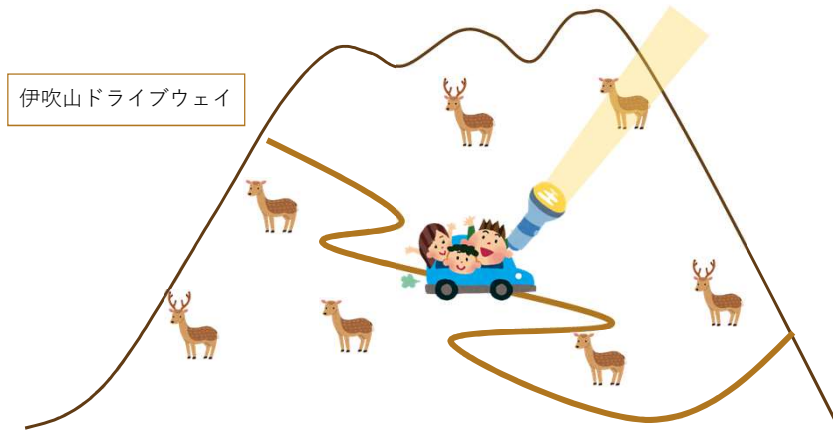
● モニタリング計画（調査エリア及び調査スケジュール案）

- 1 調査内容・方法
- ①生息状況調査 SCS（スポットライトカウント調査）、により生息・定着の有無、状況を把握する。
 - ②行動圏調査 GPS首輪を使い鹿の行動圏を把握する。
 - ③植生遷移調査 シカが植生遷移に与える影響を調査する。
- 2 調査箇所
- ①伊吹山ドライブウェイ
 - ②伊吹山東面
 - ③伊吹山東面（笠又地区）裸地箇所

調査エリア	R3	R4	R5	R6
①伊吹山ドライブウェイ	ライトセンサス	ライトセンサス	ライトセンサス	ライトセンサス
②伊吹山東面		生息圏調査		
③伊吹山東面（笠又地区）裸地箇所		植生モニタリング調査	植生モニタリング調査	植生モニタリング調査

● ①生息状況調査

ニホンシカの個体数密度推定を行い、生息状況を把握する。



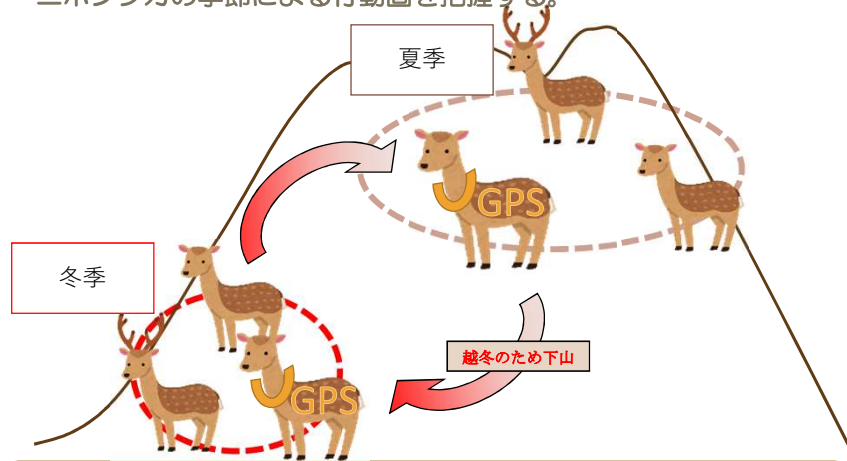
【調査方法】

・スポットライトセンサス

夜間に一定のルートあるいは調査地を照射しながら発見された個体をカウントする。夜間にセンサスすることで、ライトに反射してシカの目が光り発見しやすいこと、またシカ類のように夜間採食活動が活発になる種は発見が容易になる。

● ②行動圏調査

ニホンシカの季節による行動圏を把握する。



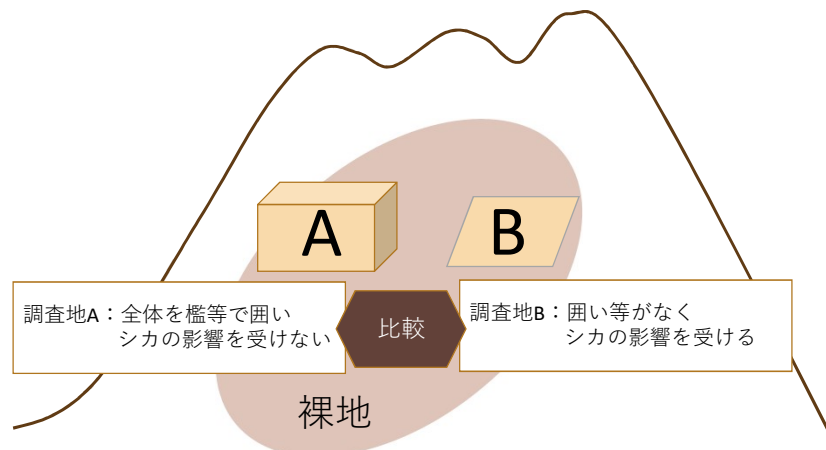
【調査方法】

・GPS首輪調査

シカにGPS発信機付きの首輪を装着し、季節による行動圏を把握する。

● ③植生遷移調査

伊吹山での表層土の裸地化がシカの影響によるものか調査する。

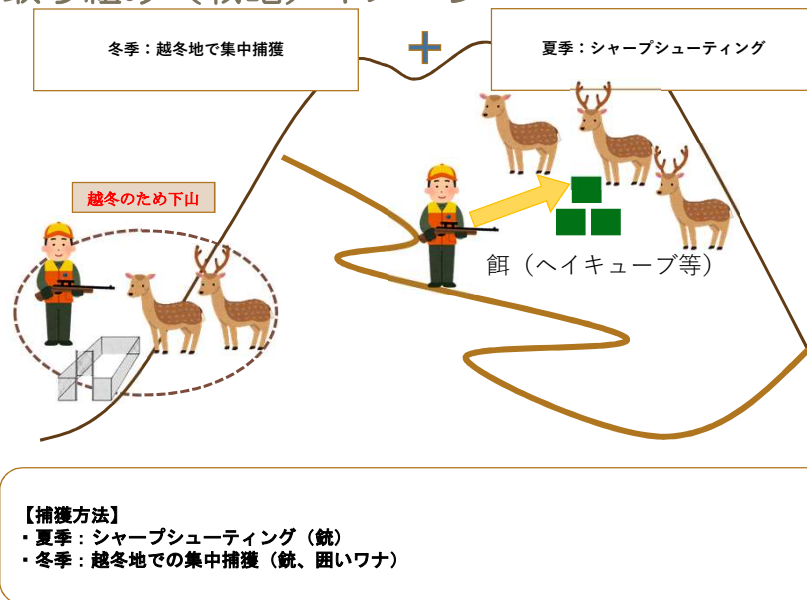


【調査方法】

・植生モニタリング調査

シカの影響を受けない調査地と、影響を受ける調査地での植生遷移を比較する。

● 裸地化防止に向けたニホンジカ個体数調整の 取り組み（戦略）イメージ



● R3調査結果

（調査日） 令和3年11月8日～11日
（場所） 伊吹山ドライブウェイ
（天気） 曇り ※風がかなり強い

